

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 8 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	29.8 °C	3.4 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	37.3 °C	6.98 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.07 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	36.3 °C	0.23 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	26.2 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	25.3 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	24.1 °C

※1 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/3 10:47 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/8 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/8/20～ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

< 5. その他 >

・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。

8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。

- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
 - H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
 - H26/8/29 12:45 頃 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。落下した燃料交換機の操作卓は、燃料ラック上部に設置してある養生材(鉄板高さ30cm程度)と、当該プール内の瓦礫の間に落下していることを確認。
 なお、使用済燃料プール水の放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことと、プラントパラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。
- <使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:9/7)>
- セシウム 134: 2.0×10^2 Bq/cm³
 - セシウム 137: 5.9×10^2 Bq/cm³
 - コバルト 60:検出限界値未満(検出限界値: 9.0×10^{-1} Bq/cm³)
- <プラントパラメータ(9/7 16時現在)>
- モニタリングポスト :有意な変化なし
 - 原子炉建屋オペフロ雰囲気線量 :有意な変化なし
 - 使用済燃料プール水位 :有意な変化なし
 - スキマーサージタンク水位 :有意な変化なし
- H26/9/4 12:04 頃 G4南タンクエリアのA5タンクとA6タンクの連絡弁より水が滴下していることを、A4タンクからA5タンクへの水張り作業中の当社社員が発見。滴下している水はRO濃縮水(淡水化装置で発生した濃縮水)で、堰内に留まっており、堰外への流出はない。当該連絡弁からG4南タンクエリア堰内に滴下した量を評価した結果、移送開始後にA5タンク水位が当該連絡弁の高さに到達したおおよその時間から、滴下発見後にビニール袋による養生を施すまでの時間を算出(滴下は1滴/秒として計算)して、約1リットルと推定。A5タンク内の水位を下げるため、12:40頃より、仮設ポンプにてA4タンクへの移送を行っていたが、ひび割れ箇所の補修および夜間における作業安全を考慮して、17:50頃に移送を一旦停止。その後、接着剤(パテ)にてひび割れ箇所の補修を行い、18:03に滴下が停止したことを確認。接着剤によるひび割れ箇所の補修を行った以降、定期的なパトロールを実施し、当該連絡弁からの滴下が無いことを確認。その後、9/5 14:16からA4タンクへの移送を再開。同日 17:00にA5タンク内水位が当該連絡弁の位置より低い状態となっていることを確認。その後、仮設ポンプで吸い込み可能な水位まで至ったことから、同日 18:10に移送を停止。なお、滴下したRO濃縮水が混入したG4南エリア堰内雨水については、9/4よりパワープロベスター(バキューム車)にて断続的に汲み上げを行っていたが、9/6 12:00頃に堰内雨水の汲み上げが完了。また、RO濃縮水が滴下した周辺の堰床面の洗浄を実施。
 - H26/9/5～ サブドレン他水処理施設については、安定稼働に向けた各種試験を行っているが、9/5～9/9にかけて、これまでの試験において汲み上げた地下水をサブドレン他水処理施設の浄化装置に通水し、循環運転を行い、健全性の確認(連続循環運転)を行う予定。
 - H26/9/6 10:50 頃 福島第一原子力発電所構内で作業をしていた協力企業作業員(男性)が体調不良を訴え、入退域管理棟救急医療室に入室。医師による診察の結果、緊急搬送の必要があると判断されたため、同日 11:18にドクターヘリを要請し、11:52救急車にて福島第一原子力発電所からドクターヘリの待ち合わせ場所へ出発。同日 12:15にドクターヘリにて、いわき市立総合磐城共立病院へ出発し、12:55に到着。医師の診察の結果、1～2週間程度の入院加療を要することになった。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- 1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日 8/30]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、9/8 10:05 海洋への排水を開始。同日 10:30 に漏えい等の異常がないことを確認。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

- <H4エリア周辺のサンプリング実績>
- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- <福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>
- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上